

タンチョウ博士のお話（第8回）

今回はタンチョウの飛ぶ距離と速度についての質問です。質問は、〔中小〕鈴木空さん・宮田彰さん・I.Aさん、〔南小〕Y.Sさんなど9名の方からいただきました。

○ウサイン・ボルトが走るのと、ぼくが飛ぶのでは、どっちが速い？

トリ仲間で飛ぶのが最も速いのはハヤブサ。水平に飛ぶときは時速100kmほどだが、獲物を狙って急降下すると、390km近くになるという。北海道新幹線の最高時速が260kmだから、くらべものにならない速さだ。

ぼくはトリだ。だから空を飛べる。では、どれくらいの速さで、どれくらいの距離^{きょり}を飛べるか知ってるかな？

ヒトで最も速く走ったのは、そう、先日引退したジャマイカのウサイン・ボルトさんで、100mを9.58秒。君たちなら、小学3年生でだいたい20秒、6年生なら18秒くらいかかるかな。

では、算数の問題をひとつ。「ボルトさんは、時速何キロで走ったか？」計算してみよう。おおまかに言って、100mを10秒で走れば、1分間に600m進む。60分で1時間だから、600m×60=36,000m、つまり時速36kmだ。

しかし、こんな速さで長いことは走れない。マラソンの42.195kmの世界記録^{せかいきろく}（2時間2分57秒）を出した人は、ほぼ時速20kmで走ったことになるよ。

さて、ぼくがふつうに飛ぶ速さは、なんと時速およそ50km。ボルトさんや世界一のマラソンランナーよりずっと早い。しかも、日本海を挟んでロシアから北海道へ飛んできた仲間もいるので、休まずに500kmは飛べるのも確かだ。だから、本州と北海道の間の津軽海峡^{つがるかいきょう}を渡るのなどは、ヘッチャラさ！（でも、ぼくはまだ飛び越えたことないけどね）。

ぼくが飛ぶときは、1分間に180回ほどつばさを上下にうごかす（羽ばたく）。とすると、1時間飛べば10,800回羽ばたくことになる。ロシアと北海道のあいだの海が500kmあるとすると、時速50kmで少なくとも10時間かかるから、羽ばたきは108,000回だ！！

ふう～！さすがに疲れる^{つか}。それで、長距離を飛ぶときは、上昇気流^{じょうしょうきりゅう}などを利用して、つばさを広げたまま羽ばたかずに飛ぶこともあるのさ。つまり、グライダーのような滑空だ。これなら疲れが少なくて済むよ。

また、仲間といっしょに飛ぶとき、横一列^{よこ}や縦一列^{たて}に並ばず、前にいる仲間のちょっとわきを斜め一列^{なな}で後ろからついて行く（写真①）。これで前もよく見えるし、前の仲間の羽ばたきで起きる空気のながれ（うず）をうまく利用して、なるべく「省エネ」で飛べる。ぼくたちの暮らしの知恵なのさ。

10月は、繁殖地^{はんしよくち}から越冬地^{えっとうち}へ移り始める季節だ。飲まず食わずで長距離を飛ぶのは体力を消耗^{しょうもう}するから、北海道では、少し飛んで餌のありそうなところで降り、休み休み、だんだんと越冬地へ寄って行く。ヒトも長距離を車で移動するときは、道の駅などに寄り休憩^{きゅうけい}をとりながら行くだらう。それと同じさ。

（文・写真：正富宏之）



写真①斜め一列になって飛ぶタンチョウ